

<3層のパイ包み>ほとんどのアジサイたちの花はもう終わったのですが、この暑くて雨の少ない時期がタマアジサイの出番のようです。名の謂れの通りのまん丸い大きな蕾が枝の天辺に付きます。蕾はクリーム色のパイ包みのような形で3層のパイの皮が外側から順に剥がれ落ちるように花が姿を見せました。まず白い装飾花を持った4つの青紫の花が現れ、次いでその内側のパイ皮が剥がれ4つの花が出て来て、最後に真ん中の花ひとつがパイ皮を脱ぎ捨てて出来上がりです。タマアジサイは大きな立派な葉をしていて昔は“ヤマタバコ (注)”とも言いタバコの代用品にしたようです。



<タマアジサイ>

(注) 黄色い穂状の花を咲かせるヤマタバコが別にあります。

<ところ変われば>青々とした大きな葉っぱのクサギがビオトープの奥に植わっています。1cm弱の白くて細長い蕾の集まった花芽(集散花序)を付けていましたが、やっと咲き出しました。白に少しピンクの混じった細長い花弁が5つ、平らに開いた花で4本の長い雄しべが特徴的です。花はいい匂いなのですが葉っぱをちぎってみると名の通り独特の強い臭いがします。日本ではあまり重宝されない木のようなのですが、フランスなどでは街路樹として大事にされているようです。秋口にはとても可愛らしい実を付けます。種は絹を青く染める草木染めの染料になります。



<クサギ>

<いささか>気の早いことではありますが8月になるとこの暑さの中に秋の気配が少しずつ忍び込んで来るのですね。羽の模様が特徴的なミヤマアカネが姿を見せ始めました。小さなトンボですが目立ちます。まだ橙色のナツアカネも飛んでいます。シオカラトンボも来年に



<ミヤマアカネ>



<ナツアカネ>

命をつなぐのに懸命です。そのほか夏を代表する昆虫の一つカブトムシが沢山いるようなのですが無残に食べられた(おそらくカラスに)残骸とそれを運ぶアリの姿しか見ません。<雑木林>の下生えの中にヤブランの薄い青紫の花を見るようになるとやはり秋の気配を感じます。ビオトープでは急とも言えるように咲き出しました。晩秋から冬にかけ黒紫の丸い実を付けます。篠竹で作った鉄砲に濡れた紙を丸めて弾にして遊ぶのですが、ヤブランの実も代用になりました。



<ヤブラン>

(文と写真: 松本正勝)

